



北東側外観

一般財団法人 厚生会 仙台厚生病院

きょう開院



医学の進歩に柔軟対応、地域医療の砦に
一般財団法人厚生会仙台厚生病院
理事長 目黒 泰一郎

高度先進医療を提供し、地域医療を支える仙台厚生病院の新病院が仙台市中心部に完成した。心臓・血管、呼吸器、消化器の3領域の高度・専門治療と救急医療の確実な提供を可能とする機能と体制を強化。完全個室化となる409床は半数超が無差額で、安全・安心で良質な医療環境が整った。設計・監理は佐藤総合計画、鹿島・橋本店・阿部和工務店を、中心とした施工陣が高い技術力とものづくりに対する誇りと熱意を結集した。杜の都に調和する次世代型先進病院がきょう5月7日に開院する。

当院は1943年、東北帝国大学抗酸菌病研究所の支援施設として、現在の地に開設されました。当初は結核治療を主たる目的としておりましたが、およそ半世紀後の1996年には心臓病、がんなど現代日本の代表的疾患の専門治療を提供する施設として再出発が行われました。しかしながら、加速する医学の進歩、増える一方の患者数、救急車受入数などに対応することが次第に困難となり、より大きなスペースを求めて、2021年7月から新病院建設に着手しました。その新病院建設のコンセプトは「杜の都の次世代型先進病院」です。病院外観は、杜の都に調和すべく、大地の色をイメージしたアースカラーが基調です。また、409の病床はすべて個室(過半数は無差額個室)

とし、入院されている方々と、外来及びお見舞いに訪れる方々との動線も分離しました。プライバシーの尊重と感染対策に配慮した結果です。さらに、外来診察ゾーン、検査室、手術室、集中治療室等もスペースに余裕をもって設計しました。医学の進歩に柔軟に対応していきたいとの思いからです。病院は、ともすれば暗いイメージを与えるでしょうが、エントランスは吹き抜けの構造とし、病と闘う人々を、明るい光の中で迎えるよう工夫しました。仙台厚生病院の職員970名は新築移転を機に、これまで以上に、心臓血管・呼吸器・消化器の3領域における、地域医療最後の砦たることを目標に尽力してまいります。

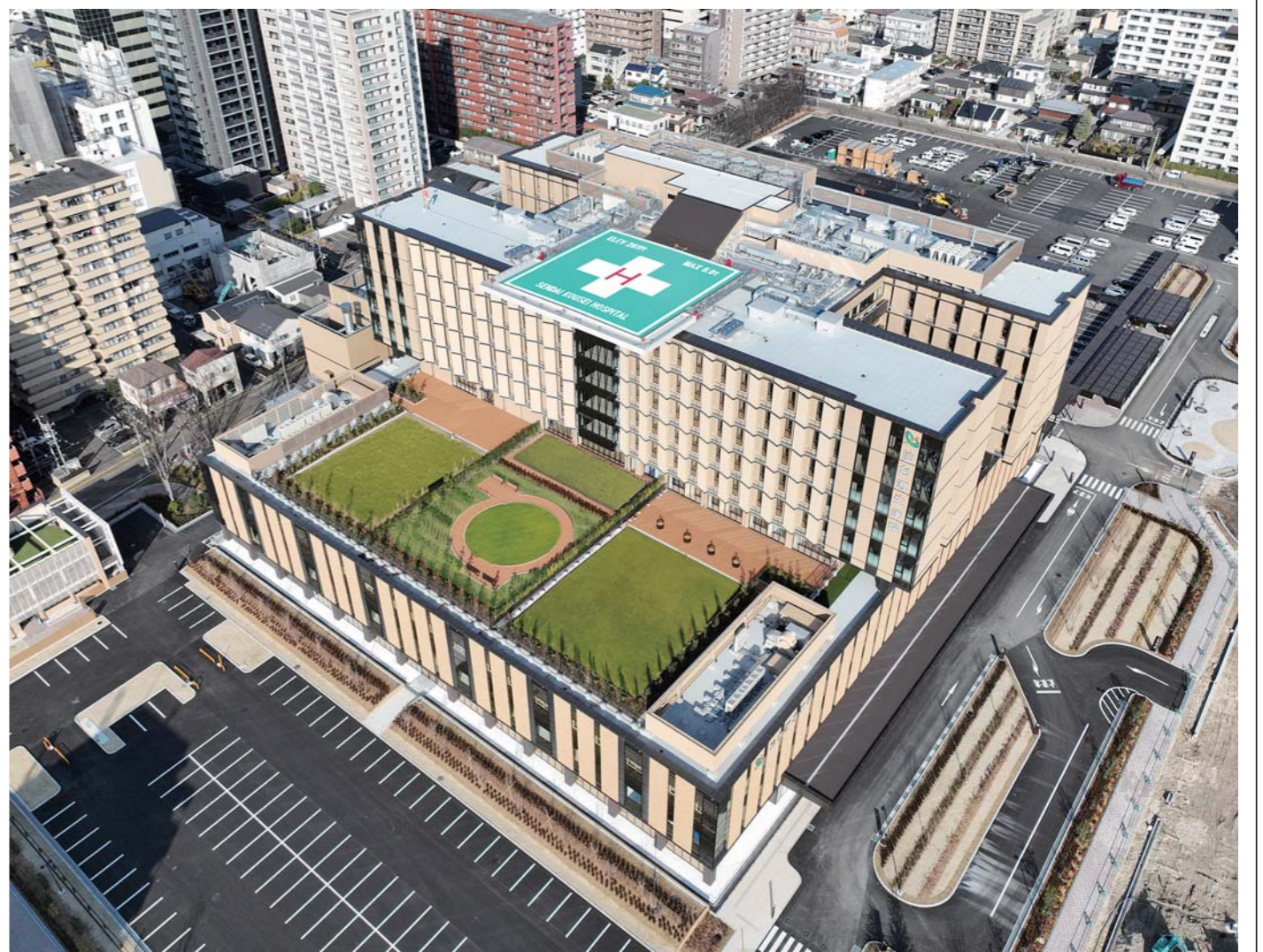
409床完全個室化

計画地は杜の都・仙台の中心地ともいえる青葉区上杉地区にあり、周辺のまちづくりと連携、調和を図りつつ、病室の全個室化、伸展・拡張スペースを備えた新病院を整備しました。◆診療部門の充実と感染症対策を見据えた病棟設計
メインとなる病棟は正方形に近い基礎部3層に、診察やカテーテル室・放射線検査・手術・ICU・CCUセンター、医局・看護師室などの機能を集約、H型で東西に跳ね出し5・9階部分は病棟としています。病室は、409床をコロナ禍以前の計画当初から感染症対策を強化する方針とし、さらに患者さんのプライバシーに配慮するための全個室化を採用しました。4階にはレストランと屋上庭園を配置し、ウェルビーイングな環境づくりを行っています。

杜の都に調和する次世代型先進病院

◆山形の地に新しい都市景観を創出
外観は歴史ある「上杉」の地の環境に合わせ、落ち着いた茶系を基調としたアースカラーとしています。基礎部分の外装は、スクラッチタイルをPC版に打ち込み、来院者が温かみを感じられる優しい表情を醸し出す仕様としました。病棟の外壁は、各個室用の

充実の機能・体制で高度専門治療提供



2021年7月に起工式が行われ、本工事が始まりました。新たな仙台厚生病院は、4万平方メートルを超える敷地に免震構造である病院棟、エネルギーセンター棟、保育所棟から構成されています。施設に関しては、生産性向上と省力化を旨とし、高所の現場作業を減らすため可能な限りユニット化を心がけました。また、資材の垂直移動を容易にするため、高層エレベーターを先行して施工を進め、早期に本設エレベーターを稼働させました。仕上げは着工当初からの決め工程を提示し、早期に総合図をまとめることにより発注者、設計者との意識の共有を図り、現場工程に遅れることなく発注を進めました。またBIMを活用することにより、早期に懸案事項を抽出し、それぞれの課題

施工のポイント 生産性向上と省力化追求

最盛期には1日約800人超が先行施工を行うなど合意形成を図り、施工を進めることができました。建設に従事する中、元請と協力会社の共通認識を得るため、朝礼会場の大型デジタルサイネージによるビジュアルを用いた説明を行い、安全意識の向上に努め、大きな事故もなく工事を完了させることができました。東北全域において、循環器、呼吸器、消化器の3領域における最後の病棟として期待されている仙台厚生病院の新たな歴史の始まりに際し、無事にお引渡しすることができたことに工事関係者一同安堵しております。

2021年7月に起工式が行われ、本工事が始まりました。新たな仙台厚生病院は、4万平方メートルを超える敷地に免震構造である病院棟、エネルギーセンター棟、保育所棟から構成されています。施設に関しては、生産性向上と省力化を旨とし、高所の現場作業を減らすため可能な限りユニット化を心がけました。また、資材の垂直移動を容易にするため、高層エレベーターを先行して施工を進め、早期に本設エレベーターを稼働させました。仕上げは着工当初からの決め工程を提示し、早期に総合図をまとめることにより発注者、設計者との意識の共有を図り、現場工程に遅れることなく発注を進めました。またBIMを活用することにより、早期に懸案事項を抽出し、それぞれの課題



10F 病室



エントランスホール(吹き抜け)



1F 救急アード



1F 心臓カテーテル室

Table with 2 columns: 工事概要 (Project Summary) and 設備 (Equipment). Details include 409 beds, various medical departments, and construction specifications.

Design and construction partners including AXS (佐藤総合計画), 鹿島 (100 years of company), 橋本店, and 阿部和工務店. Lists representatives and contact information for each firm.